

PHR 協会

発足講演会を開催 個人健康記録で基盤整備を推進

個人の健康記録を活用・管理するパーソナルヘルスレコーダー（PHR）の基盤整備を推進するPHR協会が発足し、11月9日に発足記念講演会が開催された。

冒頭挨拶した同協会の代表理事である大神明氏は、個人の健康情報の中でも特に健康診断の情報に関する体系的な蓄積・共用が遅れている実態を説明。同協会では、医用画像情報の相互活用を含めて産業保健全体のフローの見直しや統合健康管理システムの標準化を推進していく方針だ。さらに健診・健康管理分野でのPHRの早期の実践を目指す。

当日の講演会では日本総合健診医学会副理事長の吉田勝美氏、バイオコミュニケーション企画部長の佐々木敏雄氏、京都工場保健会・産業医の森口次郎氏、自治医



写真左から同協会代表理事の大神明氏、日本総合健診医学会副理事長の吉田勝美氏、バイオコミュニケーション企画部長の佐々木敏雄氏、京都工場保健会・産業医の森口次郎氏、自治医科大学地域医療学センター講師の藍原雅一氏、京都大学大学院情報学研究科の吉原博幸氏

藍原雅一氏、京都大学大学院情報学研究科の吉原博幸氏などが講演した。こうした講師陣に象徴される理解者、各施設の協力を得て、標準化・実践が進められる見込み。

同協会では団体会員の対象として、医療機器ベンダや医療情報ベンダ、クラウドベンダのほか、医療機関・健診機関、また産業医を含む企業安全衛生部門を想定している。